



2014・3・4

第 181 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

草の根からの世論で安倍内閣の暴走に STOP を

6 月に結成 10 周年記念講演会

安倍首相は 2 月 20 日の衆院予算委員会で、「安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会の検討を受けて、内閣法制局を中心にその議論を行っていく」「与党とも協議しながら最終的には閣議決定していく方向になる」「閣議決定したものについて、(国会で)ご議論いただく。それに沿って自衛隊が活動する根拠法はないから、自衛隊法を改正しなければならない」と語るなど、あくまで内閣の主導で集団的自衛権に関する政府解釈を変更する構えを強めています。

こうした安倍内閣の暴走に、各地、各分野の九条の会は、草の根からの世論で STOP をかけようと創意ある学習、宣伝、対話などの活動を強めています。

おりしもこの 6 月 10 日は、井上ひさし(故人)、梅原猛、大江健三郎、奥平康弘、小田実(故人)、加藤周一(故人)、澤地久枝、鶴見俊輔、三木睦子(故人)の 9 氏が九条の会アピールを発して 10 周年になります。

「九条の会」では、この 10 周年を記念しつつ、集団的自衛権行使容認阻止の草の根の

世論を盛り上げる新たなステップにしようと、「結成 10 周年記念・九条の会講演会」を開催することにしました。

◇とき 6 月 10 日(火) 午後 6 時～

◇ところ 東京・渋谷公会堂

集団的自衛権行使容認反対「九条の会」アピール賛同者の声・上

昨年 10 月 7 日に「九条の会」が発表した「集団的自衛権行使による『戦争する国』づくりに反対する国民の声を」に賛同を表明された方々から寄せられたメッセージの中からいくつかを紹介します。

相澤牧人 (日本聖公会司祭)

本当の平和(いのちを大切にす世界)を構築するためには、それを阻害することに対して毅然と「否」と言い続けていきたい。

葵生川玲 (詩人)

安倍政権になり、いよいよ危機感が迫ってくるようです。声を集めていきたいと

思います。

赤木一子（声楽研究グループ代表）

近頃、「生命」と「平和」が危機に瀕している感を強くしています。とくに安倍政権になってそれが加速しているように思います。少しでもそれを食い止めたい。だまされない目もち、同じような考えをもっている人と繋がりたい。

浅尾忠男（詩人）

9条改正に手をふれない「集団的自衛権行使」などによる「戦争する国」づくりに、現代の危機の深さを実感しています。

明日香擘子（日本舞踊明日香流宗家）

戦争は個人の自由と幸福をうばいます。あの太平洋戦争で大切な肉親、家財を失い、父母を不遇のうちに亡くした者の思いとして、いかなる理由のもとにも、戦争には絶対に反対します。させてはなりません。

荒川庸生（日本宗教者平和協議会理事長）

戦争への協力・加担への反省を土台に、戦後の宗教者平和運動はスタートしました。生命を尊ぶことを第一義として宗教者は反対します。

有原誠治（映画監督）

戦争への道を阻むことは、平和憲法の下で生まれ、育ったものの責務と思っています。

有馬頼底（臨済宗相国寺派管長）

九条を護り抜きましょう。

飯田マリ子（東京都原爆被害者団体協議会
名誉会長）

私は原爆被害者の立場から「戦争する国」づくりに絶対反対です。「国家安全保障会議」「特定秘密保護法」と合わせて「安倍ファシズム」の3点は許せません。

池享（一橋大学教授）

安倍首相は、「積極的平和主義」とか、原発汚染水の「コントロール」とか、暴言・妄言を繰り返していますが、国民の怒り、批判がそれほど高まっていないのが、もどかしくてなりません。大いに声をあげましょう！

石井摩耶子（恵泉女学園大学名誉教授）

時代の流れにおし流されることなく、あくまでも非戦・軍隊不保持の立場に固く立って、共に声を大にしていきたい。

石川文洋（報道写真家）

ベトナム・カンボジアほかの戦場を見してきました。民衆が犠牲になっている様子は悲惨です。

板坂耀子（福岡教育大学名誉教授）

「歴史的使命」とか言うわりには、憲法についてまったくまともに議論せず、おかしな手段ばかり工夫する安倍首相の品格のなさがいちばん危険で情けないです。

井戸謙一（弁護士）

人類は、過ちを繰り返しながらも、少しずつ賢くなってきました。私たちの国も、

紆余曲折はあっても、最後は賢明な選択をすることを信じたいと思います。

岡野俊一郎 (国際オリンピック委員会名誉委員)

中学2年で終戦。平和の素晴らしさを身にしみて感じています。軍部の恐ろしさを知らない人の発想に危機感で一杯です。

遠藤剛 (俳優)

戦争を体験した一人として、日本を再び戦争する国にさせては絶対にいけない！と強く感じています。またまた大事な曲がり角に来ているのではないのでしょうか。

内橋克人 (経済評論家)

日本国憲法は世界が目指すべき高い道標です。自ら貶めて「戦争する国」に堕してはなりません。

片平洸彦 (薬害問題研究者)

「戦争する国」づくりをするのではなく、ASEAN 諸国の動きに学んで、北東アジアにおける平和的な会議・条約等を推進することこそ、真の「積極的平和主義」だと思います。

門脇厚司 (筑波大学名誉教授)

安倍首相が「再生」しようとしているのは戦前の帝国憲法下の日本のようで、トンでもないことです。

栗原彬 (政治社会学者)

敗戦直後、上級生の友人が集団疎開先で亡くなったとき、一人で立てた幼年の誓い

—戦争拒否の誓い—が、本当に試されるときが来た、と思います。

小石雅夫 (新日本歌人協会・編集長)

戦犯の祖父持つゆえに「戦後レジーム」覆さんと執念(しゅうね)き総理 この祖父にしてこの孫あるか——戦犯・「安保」、然(しか)く「改憲」 私怨もて国の政治を贅(にえ)となす“万人が一人のために” 供さる

渾大防一枝 (劇団民藝)

国民が時の為政者に遵守を命じている憲法を、国が国民に命じる憲法に変えようとする安倍政権の暴志を絶対に許してはならないと思います。

早乙女勝元 (作家)

今ならまだ間に合う。その今に小さな勇気を山ほど集めて、大きな勇気を必要とする深刻な事態にストップを。

沢田昭二 (名古屋大学名誉教授)

19世紀の後半から始まった非人道的兵器禁止は1945年の国連憲章で武力行使原則禁止に到達し、日本国憲法につながったのに原爆投下がこの人道の発展を妨げました。元の方向にもどしましょう！

さねとうあきら (劇作家・児童文学者)

地球の裏側は無論のこと、日本近海の岩だらけの小島でも、日本の若者と異邦の青年の血を流してはいけない。9条が若者の命を守りつづけたのだ。

佐々木光明（浄土寺）

専守防衛としての自衛隊で十分、外へ出る必要はありません。不殺生を！

佐江衆一（作家）

戦争を知らない世代がふえて、景気が上向いたスキに特定秘密保護法を強行採決、さらに中国に対抗する名目で軍備増強に走るますますキナくさい今日、世界に誇る日本国憲法を守りぬかねばなりません。

鈴木瑞穂（俳優）

歴史に学ばず、戦争も知らず、想像力にも欠けた政治屋さんは、恐ろしいと思いません。再び若者をあの凄惨な戦場におくってはなりません。

鈴木範久（立教大学名誉教授）

人間の生命を最軽視する戦争の悪を少年時代に経験。現在の政治の動きに危機を感じます。

杉原泰雄（一橋大学名誉教授）

近代立憲主義・軍事立憲主義を否定する明治憲法以下の反立憲主義政治です。

杉みき子（児童文学作家）

オリンピックをやります、戦争もやれますと口の先まで出掛かって居ぬか。

進藤省次郎（元北海道大学教授）

世界の人びとに“友情と平和”を、そして“感動と勇気”を育てて来たオリンピック。それを二度も中止に追い込んだのは戦争です。安倍首相は、東京オリンピック招

致のプレゼンテーションで、このオリンピックの理念には全く触れず、原発の「安全宣言」をし、国威発揚の手段としてスポーツとオリンピックを利用しようとしています。「集団的自衛権」行使とスポーツ文化は絶対に相容れません！

志茂田景樹（「よい子に読み聞かせ隊」隊長・作家）

九条は理想と真理がこもった名文です。

下重暁子（作家）

少しでも戦争に近づく道は避けなければならない。

清水正嗣（大分大学名誉教授、83歳）

戦争を実体験した政治家、議員、大臣などが殆どいなくなった今日、戦争の極悪非道さを語る人が少なくなっています。我々戦争を知る高齢者は、それを語り伝えるだけでも重要なレジスタンス。長生きして話しつづけよう。

茂山あきら（狂言の役者）

憲法9条は、世界の状況に合わないと言われていて。でも不戦は人類の理想であるはず。9条が世界の实情に合うようになりたいものです。

信楽香仁（鞍馬寺）

“天地と和し、人々と和し、身と心と和し、いと楽しく生きん” 和の心を 和の世界を祈ります。